

日曜日礼拝順序

憩いの場

2020年3月8日 午前11時 南部チャペル

“はじめに言葉があった”

前奏	鈴木義兄
頌栄	539
開会の祈り	安納義人牧師
主の祈り	一同
交読文	42 マタイ伝6章
讚美	賛美歌56番 “七日のたび路 やすく過ぎて”
祈りの時	Scroggins 由紀牧師
聖書拝読	坂田淑姉
	詩篇90篇1-12節
讚美	賛美歌313番 “この世のつとめ いとせわしく”
説教	“自分の日を数える” 安納義人牧師
讚美	賛美歌285番 “主よみ手もて ひかせたまえ”
献金	下竹祐三郎兄
報告	
頌栄	541
祝福	安納義人牧師
後奏	鈴木義兄

(礼拝終了:奉仕開始)

交わりの時	礼拝後	南部チャペル
-------	-----	--------

“初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。”(ヨハネによる福音書1章1節)

9年前に、東日本の震災があったとき、教会の礼拝が始まる前に、あるラジオ局の人が日本の状況について、インタビューにやってきました。ちょうど合同礼拝の前だったので、あまり時間が取れなかったのですが、聞かれることにこたえているうちに、この男性は、意図的に被害者を探しているように見えました。いわゆるセンセーショナルリズムです。私や教会の人たちの家族も、みな無事であったという、よかったですね、というでもなく、ほかにもっと被害にあった人を知りませんか、というようなことを事務的に聞いてきましたが、ない袖は振れません。彼は無表情のまま帰っていきました。探していたネタがもらえず、がっかりしたのでしょう。もちろん、私のインタビューは報道されませんでした。

こういった経験があるために、私はニュースを聞くときは非常に慎重に吟味して、また一社に限らず様々なソースから情報を入れるようにしています。現在、世間を騒がせている、新型コロナウイルスに関しても、必要な対応をすることはもちろん重要ですが、扇動的なフェイクニュースに関しては、冷静に対処するべきだと思います。

私たちが発する言葉についても、このような時だからこそ、一個人として他人にどのような影響を与えるか考えてみましょう。ヨハネによる福音書には、はじめにことばがあった、ことばは神と共にあった、ことばは神であったとあります。ことばには神の霊があり、わたしたちは様々な人々の言葉によって支えられて生きています。人を不安に陥れるニュースに振り回される代わりに、神に対する信仰に、より深くつながって希望のことばを人々と分かち合いながら生きていきたいと思っています。(Yuki Scroggins)

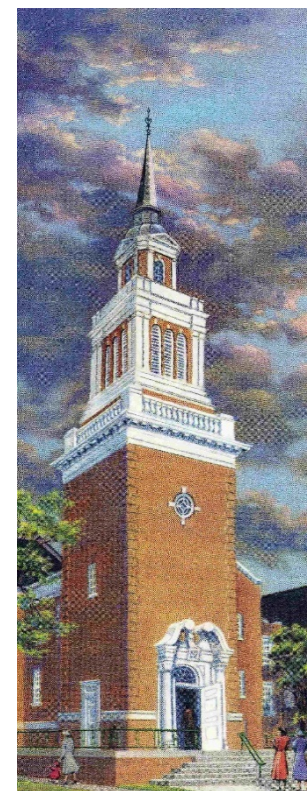
記事:消息

—陳百合子姉、南部勝牧師、武井里花姉、小坂るみ姉、三縄都美子姉、下竹寛子姉、Chieko Dano 姉など、教会の内外において主の癒しを必要とされている方々のために、また、武漢からはじまり、世界各地に広がっている新型コロナウイルス感染が一日も早く、収束に導かれるようにお祈りください。

お知らせ

—本日と3月15日は、由紀牧師の代わりに安納義人牧師が来られて、メッセージをしていただきます。安納先生に感謝いたします。尚、3月15日の週報は休刊となり、礼拝順序が配られますのでご了承ください。

発行: 2020年3月4日ノースショアバプテスト教会日本語部
スクロギンズ 由紀牧師 (Rev. Yuki Scroggins)
電話: 773-728-4200



週報

第3761号
2020年3月8日

ノースショア バプテスト教会 日本語部
North Shore Baptist Church Japanese Language Group

5244 North Lakewood Ave. Chicago, IL 60640
Phone: 773-728-4200
Web: www.northshorebaptist.org